

船舶事故調査報告書

平成22年9月30日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 山本 哲 也

委員 根本 美 奈

事故種類	沈没
発生日時	平成21年11月8日 09時00分ごろ
発生場所	石川県金沢市 金沢港西防波堤灯台から真方位025° 3.5海里付近 (概位 北緯36° 41.8′ 東経136° 37.8′)
事故調査の経過	平成21年11月9日、本事故の調査を担当する主管調査官（神戸事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	モーターボート ^{ろまんてい} 浪漫亭、5トン未満 242-22227石川、個人所有 6.96m(Lr)×2.45m×1.33m、FRP ディーゼル機関（船内外機）、110kW、平成9年6月 最大搭載人員 10人
乗組員等に関する情報	船長 男性 54歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士 免許登録日 平成15年9月19日 免許証交付日 平成20年10月23日 (平成25年10月22日まで有効)
死傷者等	負傷 1人（船長）
損傷	全損
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、友人3人を同乗させ、石川県内灘町所在のマリーナの北西約3～4km 沖で釣りをを行い、平成21年11月8日（日）08時20分ごろ、釣り場を移動していたところ、主機の排気管に設けられている排気ガスと冷却海水とを混合するミキシング部から海水が漏えいして、機関室が浸水した。</p> <p>船長は、主機を停止し、ビルジポンプで排水を試みたが、約10分間で蓄電池が過放電して排水できなくなったことから、マリーナに救援を要請したのち、乗船者全員に救命胴衣の着用を指示した。</p> <p>本船は、船尾が沈下するのに伴って機関室への浸水量が更に増え続けた。</p> <p>09時00分ごろ、本船は、船首を上に向けてほぼ垂直の態勢で沈没した。</p> <p>海面に漂っていた乗船者4人は、10時00分ごろから10時30分ごろにかけて、船長の急報を受けて駆けつけた来援船に救助され、マリーナに帰港した。</p> <p>船長は、低体温症と過労のため、5日間の入院加療となったが、同乗者</p>

	3人に負傷等はなかった。	
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南西、風力 4～5、視界 良好 海象：やや波	
その他の事項	主機排気管のミキシング部から冷却海水が機関室に漏えいして船尾側が沈み、ミキシング部の高さが海面より低くなったことから、海水が、排気管を通してミキシング部から機関室に流入することとなった。	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	不明 あり なし 本船は、金沢港西防波堤灯台北北東沖において釣り場を移動中、主機の排気管に設けられたミキシング部から冷却海水が漏えいして機関室が浸水し、更に船尾側が沈下したことからミキシング部の高さが海面より低くなり、海水が排気管を通して機関室に流入し、浮力を失ったものと考えられる。 本船は、主機の排気管と冷却海水管とのミキシング部のラバー継手、排気管又は冷却海水管等に、何らかの損傷が生じて海水が漏えいした可能性があると考えられるが、本船が沈没しており、損傷するに至った経過は明らかにすることができなかった。
原因	本事故は、本船が、金沢港西防波堤灯台北北東沖において釣り場を移動中、主機の排気管に設けられたミキシング部から海水が漏えいして機関室が浸水したため、浮力を失ったことにより発生した可能性があると考えられる。	